

# ウクライナ戦争とこれからの世界

今回のウクライナ戦争は世界を大きく変えるだけの影響力をもつ。

戦争後の世界はどうなる。

(4月13日開催、日外協ウェビナー「ウクライナ戦争後の世界を考える」から抜粋)

慶應義塾大学 名誉教授  
島田晴雄

## 現代世界の分水嶺

プーチン大統領には独特の歴史観がある。それは、「ウクライナの主権はロシアの支配の下のみ正当化される」というもの。「ウクライナはソ連邦解体後独立したが、歴史的経緯からして独立国家の正当性はない。だから、ウクライナ(小ロシア)はロシア(大ロシア)、ベラルーシ(白ロシア)と再統合すべきだ」。このような歴史観が今回のウクライナ侵攻の動機になっている。

ウクライナ戦争は現代世界の分水嶺になるだろう。戦争後の世界はそれまでとはずいぶん違ったものになるに違いない。大きな4つの変化が予想される。

### 1. 世界体制の変化

第二次世界大戦後の世界の発展と安定を担った「パックス・アメリカナ」(米国による平和)の退潮が一段と鮮明になった。その上、米国の国内は分裂している。今や世界を担う力と信用に疑問符が付けられている。一方、これとは対照的に中国の台頭と拡大は目覚ましい。一帯一路で30カ国を味方につけ影響力を増し、もう1つの極になる可能性がある。新しい世界二極体制下で経済分断と貿易・投資のブロック化が進展するかもしれない。

### 2. 自由貿易の後退

これまでの世界はパックス・アメリカナの下、

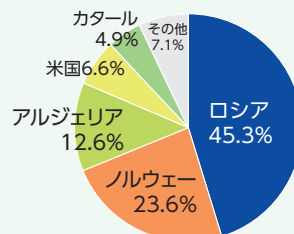
自由貿易によって発展し豊かになってきた。だが、経済制裁でこれにストップがかかった。世界経済は相互依存を強めている。ロシアとの取引停止といっても、欧州はロシアのエネルギーに大きく依存している。ロシアへの制裁は欧州にも打撃が大きい。日本にとっても、ロシアとの樺太の天然ガスパイプライン建設は手放すことができないプロジェクトだ。貿易が減れば経済は収縮する。

### 3. 世界が軍事力強化の必要を実感

ウクライナ戦争前は管理された世界安全保障体制がそれなりに機能しているとの認識があった。ところが、ロシアのウクライナ侵攻を目の当たりにして、米国に多くを依存してきたNATO諸国は自衛力を抜本的に強化する必要を感じている。ウクライナ戦争後は西側と中国・ロシアとの軍事対立という危機が顕在化し、準戦時体制のような状態になることも考えられる。

#### EUの天然ガス輸入(2021年)

域内消費の9割を輸入に依存するEUにとって  
ロシアは最大の調達先



出所：欧州委員会資料(2022年3月8日)を元に日外協作成